

マダコによるアワビに対する食害

資源が減少しているアワビ類の資源回復を図るために、アワビの調査を行っていますが、白浜地先で潜水調査を行った際に、一昨年からアワビの調査場所の周辺にマダコが見られるようになりました(写真1)。



写真1 海底で観察されたマダコ

そこで、過去の潜水調査の野帳から、マダコの観察記録を抜き出し、分場日より第308号のときと同じように、平成11年以降に白浜地先で潜水した際に確認したマダコの発見数(潜水調査1回当たりのマダコ発見数)をみると(第1図)、2006～2007年にかけてのピーク以来のピークとなっているようです。

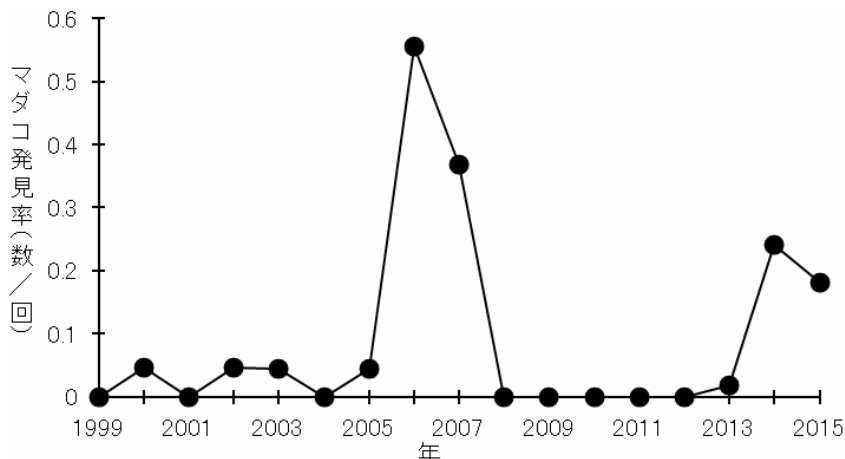


図1 白浜地先で観察されたマダコの発見率の推移

潜水時に観察すると、海底には所々に転石の下や岩盤の隙間にマダコがいたと思われる穴が開いていたり、マダコが潜んでいたり、その周辺にトコブシやアワビの死殻が散乱していました（写真2）。死殻の大きさは、メガイアワビでは殻長 63～145mm でした。



写真2 海底で観察されたマダコと巣の前のアワビの殻
白い矢印にマダコ、黒い矢印にメガイアワビの死殻

海中で実際に殻長 111mm の漁獲サイズのメガイアワビを摂餌中のマダコも確認できました。

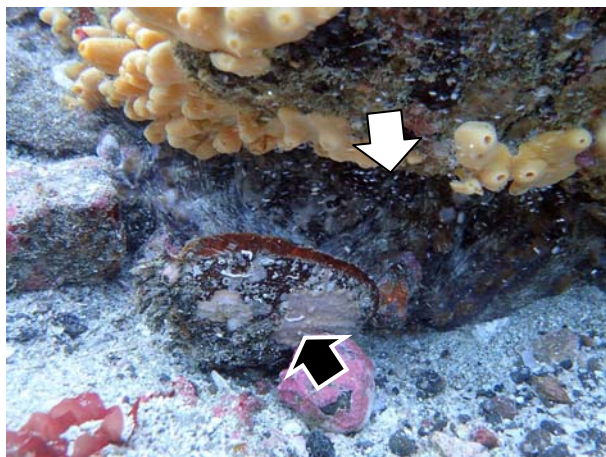


写真3 メガイアワビを摂餌中のマダコ
白い矢印にマダコ、黒い矢印にメガイアワビ



写真4 マダコに食べられている最中であったメガイアワビ

発見したマダコの大きさは、全長 30～58 cm、体重 422g～1.8kg とさまざまでした。普段、マダコのアワビに対する食害に関しては、あまり気にしていませんが、たびたび出現のピークがあると無視できない存在と言えます。

2015 年はまだ 3 ヶ月しか過ぎていませんので、今後まだまだマダコが確認されるかもしれません。アワビ資源を守るという観点から、各地先でマダコが多く観察された場合には、積極的に漁獲することが必要と思われます。

(伊藤 円)